

九州電力の生物多様性への取組み

近年、複雑なバランスのもとに成り立つ生物多様性が、人類の活動により急速に失われつつあります。生物多様性は人類の生活に不可欠な自然の恵みを与えていることから、その保全及び持続的な利用を行っていくため、1992年の国連環境開発会議（リオサミット）において「生物多様性条約」が採択されました。

これを受けて、我が国では、2008年に「生物多様性基本法」が制定されています。また、2010年は国連が定めた「国際生物多様性年」であることや、同年10月には愛知県名古屋市において「生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）」が開催されるなど、国内外問わず、具体的な行動を求める社会的要請が高まりつつあります。

当社の事業活動の実施にあたっては、生物多様性が生み出す様々な自然の恵みを享受している一方で、CO₂排出による地球温暖化への影響や、設備の設置に伴う土地改変などにより、生物多様性に影響を与えることが懸念されます。

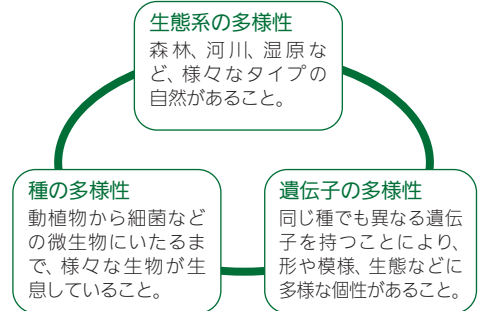
このため、原子力や再生可能エネルギーの推進など地球規模での環境影響への配慮や循環型社会形成への取組み、環境アセスメントなど地域レベルでの環境保全、環境教育支援活動をはじめとした社会貢献活動など、事業活動全般にわたって、生物多様性に配慮した事業運営に努めています。

生物多様性とは

多種多様な生物が、地域固有の自然の中でお互いに関わり合って存在していることです。

生物多様性条約では、3つの多様性のレベルで捉えています。

【3つのレベルの生物多様性】



1 地球規模での環境影響への配慮

当社は、エネルギーの長期安定確保及び国が目指す低炭素社会の実現に向けて、原子力を電源の中核と位置付け推進するとともに、風力、太陽光やバイオマスなどの再生可能エネルギーを積極的に導入していきます。

また、地球温暖化問題への対応及びエネルギー有効活用の観点から、火力発電の効率化を推進するとともに、長期に安定した設備の形成・維持を図るため、設備高経年化への対応を着実に実施し、販売電力量あたりのCO₂排出量の低減に努めています。



熊本支店屋上の太陽光発電設備

2 地域レベルでの生物多様性への配慮

発電所などを新増設する際には、環境への影響を事前に把握・分析し、それを回避・低減するなど、地域特性に応じた環境保全対策を行っています。

● 川内原子力発電所3号機増設計画における環境保全対策

当社が増設計画を進めている川内原子力発電所3号機（鹿児島県薩摩川内市）の環境アセスメントにおいては、地域の生態系への影響を評価するため、食物連鎖の状況から指標となる種を選定し、DNA分析による最新の調査手法を採用して実施しました。

これらの結果を踏まえ、計画地点周辺地域の緑化や、温排水の影響を低減する取放水設備の設置などの環境保全対策に取り組むこととしています。

【川内原子力発電所3号機増設計画における主な環境保全対策】

陸域	<ul style="list-style-type: none"> 重要な動物については、種ごとに草地や常緑広葉樹林の創出等により、生育環境を整備 主要工事範囲内で確認された重要な植物については、移植等により、適切に維持管理
海域	<ul style="list-style-type: none"> 発電所の運転による温排水の影響を低減するため、取水は深層取水、放水は混合希釈効果の高い水中放水を採用 ウミガメの上陸・産卵に配慮し、埋立地は海水の流向・流速の影響を低減するような形状に形成

【生態系への影響を評価するため選定した指標動物】



フクロウ



アナグマ



ニホンアカガエル

3 生物多様性に資する技術開発・研究

事業活動に伴う生物多様性への影響を極力低減し、環境改善や低炭素社会に資する様々な技術開発や研究に取り組んでいます。

● 海域環境修復の実用化研究

海藻の群落である藻場は、CO₂の固定や魚介類のすみかななどの機能があります。当社では、地球温暖化などにより減少している藻場を修復させるため、藻場造成技術に関する研究を長崎県と鹿児島県の沿岸において行っています。



造成した藻場の生育状況

● 希少植物（絶滅危惧種）ならびに自生種の栽培に関する研究

女子畑発電所ダム周辺にある「女子畑いこいの森」(大分県日田市)に自生しているタコノアシ^{おんごはた}等、九州で絶滅が危惧される身近な植物について、保護を目的とした研究を行っています。

※：ユキノシタ科の多年草で、環境省版レッドリストに掲載されている準絶滅危惧種。



タコノアシ

4 地域に根ざした活動を通じた取組み

九州の豊かな自然環境を守り続けていくため、地域の皆さまと一体となった取組みを展開しています。

● 植樹による豊かな森づくり

「九州ふるさとの森づくり」では、森林の生態系に配慮し、その土地本来の樹種による植樹に取り組んでいます。植樹する苗木には、総合研究所で産地別に栽培したどんぐりの苗木も使用しています。



社有林(山下池周辺(大分県由布市))

● 社有林の適正な管理

4,448ha(ヘクタール)の社有林を適切に管理し、水源涵養やCO₂の吸収など、森林の持つ公益的機能の維持・向上に努めています。

また、2005年3月には、適正な森林管理が行われていることを認証するFSC(森林管理協議会)の「森林管理認証」を国内の電力会社で初めて取得しています。

● 坊ガツル^{ほろ}湿原における野焼き活動

大分支店では、ラムサール条約に登録されている坊ガツル湿原(大分県竹田市)での野焼きボランティアに参加し、美しい坊ガツルの湿原保全活動に取り組んでいます。



野焼きの風景

● 環境教育支援活動

「エコ・マザー活動」や当社社有地を活用した自然観察会などの環境教育支援活動を通じて、自然を守ることの大切さをお伝えし、次世代層の生物多様性に関する意識高揚に取り組んでいます。

「生物多様性EXPO2010 in福岡」に出展しました。

当社は、生物多様性をテーマにした初めての総合展示会「生物多様性EXPO2010 in福岡」(2010年2月26~28日開催)にブース出展を行いました。

ブース内では、生物多様性への取組みを紹介したパネルや、植樹活動に使用するため種から育てた苗木の展示などを行いました。



九州電力展示ブース

- 群落
- 絶滅危惧種
- 自生種
- 環境省版レッドリスト
- 準絶滅危惧種
- 社有林
- 水源涵養
- FSC(森林管理協議会)
- 森林管理認証
- ラムサール条約